

平成27年(2015年)5月28日
山口県病害虫防除所

1 病害虫名 キウイフルーツかいよう病 (Psa 3系統)
Pseudomonas syringae pv. *actinidiae*

2 作物名 キウイフルーツ

3 特殊報の内容 山口県で初発生

4 発生経過

(1) 発生確認月日：平成27年5月1日

(2) 発生地域：下関市

(3) 発生状況

下関市の露地栽培キウイフルーツ園地において、葉の斑点、新梢の枯死、樹液の漏出が認められた。山口県農林総合技術センターでPCR法による遺伝子診断を行うとともに、神戸植物防疫所に同定を依頼した結果、本県では未発生のキウイフルーツかいよう病Psa 3系統であることが確認された。

(4) 他県での発生状況等

本病は、平成26年5月に国内で初めて愛媛県で確認されて以降、これまでに10都県で報告されている。

5 病徴

(1) 本病は枝幹、新梢、葉、花蕾に発生する。

(2) 感染樹の枝幹では、白濁した菌液もしくは赤色の樹液の漏出を確認できる。

(3) 伸長中の新梢が感染すると、はじめ水浸状の病斑を生じ、それが次第に黒色となり、亀裂を生じて萎凋枯死する。結果母枝や枝幹では菌液や樹液の漏出が認められる場合がある。

(4) 発病葉では不整形の褐色斑点が形成され、斑点の周囲にわずかに黄色の黄色帯(ハロー)が認められるが、既発生県の報告によると「Psa 3系統」は黄色帯(ハロー)が明瞭でない場合もある。

(5) 花蕾ではガクが褐変し、花の腐敗落花が生じるが、花腐細菌病と症状が類似していることから、外観での判別は難しい。

6 伝染

(1) 病原菌は細菌の一種で、風雨や作業器具、接木により、葉や枝の傷口、気孔及び水孔から感染する。一次伝染源は罹病樹の枝幹から浸出した細菌液で、3月～6月及び10月～12月頃の風雨による細菌の飛散や汚染した樹液の付着により、葉や新梢で二次伝染を繰り返すと報告されている。

(2) 病原菌の生育に好適な温度は10～20℃程度である。

7 防除対策

- (1) 適期に薬剤散布（表1）を行う。特に病原菌が増殖しやすく、樹体内の菌密度が高い状態となる収穫後から発芽期まで及び発芽期から開花期までに防除を行う。
- (2) 感染した枝や葉は伝染源となるため、薬剤防除や枝の切り戻しを行う。主幹部から菌液が噴出するなど発病程度が重い場合は、台木部分まで伐採する。切除した残渣は土中に埋めるなど適切に処分する。
- (3) 剪定等の管理作業は晴天時をみはからって実施する。
- (4) 剪定後は、必ず切り口に癒合促進剤（トップジンMペースト）を塗布する。
- (5) 剪定等の作業に用いた器具は必ず消毒（表2）し、作業器具等を介して病原菌を未発生圃場へ持ち込まないように注意する。発生圃場での作業は最後に行うように計画し、作業終了後は器具や長靴等の洗浄・消毒を徹底する。
- (6) 風当たりの強い圃場では防風ネット等により防風対策を行う。



写真1 葉の病徴



写真2 発生樹からの樹液の漏出

表1 キウイフルーツかいよう病に対して使用可能な薬剤

系統	コ殺菌ド剤	一般名	商品名	使用倍率,使用量	使用時期 (収穫前日数)	使用回数	使用方法	成分含む 使用回数	備考
ベンゾイミダゾール系殺菌剤	1	チオファネートメチルペースト剤	トップジンMペースト	原液	剪定整枝時、病患部削り取り直後、及び病枝切除後	3回以内	塗布	8回以内(但し、塗布は3回以内、散布は5回以内)	切り口及び傷口のゆ合促進
銅殺菌剤	M1	銅水和剤	ICボルドー66D	25~50倍,200~700リットル/10a	収穫後~発芽前	-	散布	-	
		銅水和剤	コサイド3000	2000倍,200~700リットル/10a	収穫後~果実肥大期	-	散布	-	
抗生物質殺菌剤	24	カスガマイシン液剤	カスミン液剤	400倍	収穫90日前まで	4回以内	散布	4回以内(但し、樹幹注入は1回以内)	
				200倍	収穫後~落葉前まで	1回	樹幹注入		
抗生物質殺菌剤,銅殺菌剤	24 M1	カスガマイシン・銅水和剤	カスミンボルドー	500倍,200~700リットル/10a	休眠期	4回以内	散布	4回以内(但し、樹幹注入は1回以内)	
				1000倍,200~700リットル/10a	発芽後叢生期(新梢長約10cm)まで				
			カッパーシン水和剤	500倍,200~700リットル/10a	休眠期				
				1000倍,200~700リットル/10a	発芽後叢生期(新梢長約10cm)まで				
抗生物質殺菌剤	25	ストレプトマイシン液剤	アグレプト液剤	1000倍(200ppm)	収穫後~落葉前まで	1回	樹幹注入	4回以内(但し、樹幹注入は1回以内)	
			アグレプト水和剤	1000倍	収穫90日前まで	4回以内	散布		
			マイシン20水和剤	1000倍	収穫90日前まで	4回以内	散布		
	25 M1	銅・ストレプトマイシン水和剤	銅ストマイ水和剤	600~800倍	休眠期~蓄出現前	4回以内	散布	4回以内(但し、樹幹注入は1回以内)	
	41 25	オキシテトラサイクリン・ストレプトマイシン水和剤	アグリマイシン-100	1000倍,200~700リットル/10a	落花期まで	3回以内	散布	オキシテトラサイクリン3回以内,ストレプトマイシン4回以内(但し、樹幹注入は1回以内)	

表2 剪定等の作業に用いた器具に使える消毒剤

一般名	商品名	使用倍率・濃度	使用方法
次亜塩素酸ナトリウム、塩素系漂白剤	ハイター等	原液~50%	剪定鋏等を数秒間浸漬する。浸漬後は水洗し、紙等でふき取り使用する。
エタノール	消毒用エタノール	76.9~81.4%	剪定鋏等を数秒間浸漬する。浸漬後は水洗し、紙等でふき取り使用する。
次亜塩素酸カルシウム	ケミクロンG	10倍	5秒浸漬。浸漬後は水洗し、紙等でふき取り使用する。
ベンチアゾール乳剤	イチバン	500~1000倍	瞬時浸漬。浸漬後は水洗し、紙等でふき取り使用する。